

Title	Salt taste perception and blood pressure levels in population-based samples: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS)
Author(s)	久藤, 麻子
Citation	大阪大学, 2020, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/77613
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

論文内容の要旨
Synopsis of Thesis

氏名 Name	久藤 麻子
論文題名 Title	Salt taste perception and blood pressure levels in population-based samples: the Circulatory Risk in Communities Study (CIRCS) (地域住民における塩分味覚感度と血圧値との関連：CIRCS研究)
論文内容の要旨	
〔目的(Purpose)〕 食塩の過剰摂取は高血圧の大きな原因の一つであり、食塩摂取の多寡には味覚感度が影響している可能性がある。食塩摂取量が異なる秋田と大阪の一般地域住民において塩分味覚感度の現状と、塩分味覚感度と食塩摂取行動並びに血圧値との関連について横断的に検討を行った。	
〔方法ならびに成績(Methods/Results)〕 【方法】住民健診受診者30-74歳男女2,642人(秋田：1,254人、大阪1,388人)に対して、塩分含浸ろ紙ソルセイブ(0.1%、0.2%－1.6%：0.2%毎)を用いて塩分味覚検査を実施した。何かしらの味を感じられる濃度を感知濃度とし、2回連続で塩味を感じたより低い濃度を 認知濃度とした。8つの食塩摂取行動を点数化し、食塩摂取スコアとして定義した。感知・認知濃度をカテゴリー化し、食塩摂取スコア並びに血圧値との関連について、性別、年齢別、地域別に傾向性検定を行った。	
【結果】0.1%を感知できた者は、秋田・大阪とも男性約60%、女性約80%であった。最も濃い1.6%の食塩を認知できない者は、秋田・大阪とも男性で約30%、女性では秋田15%、大阪は約20%であった。30-59歳の秋田の男性では感知濃度、認知濃度と食塩摂取スコアとの間に正の関連が認められ、肥満度・喫煙状況・飲酒状況を調整しても感知濃度、認知濃度と収縮期血圧値との間に正の関連が認められた。60-74歳の秋田の男性では、感知濃度と収縮期血圧値、拡張期血圧値に、30-59歳の秋田の女性では、認知濃度と収縮期血圧との間に正の関連が認められた。	
〔総括(Conclusion)〕 食塩摂取量が多い秋田において塩分味覚感度と血圧値との関連が認められた。特に秋田の30-59歳の男性において塩分味覚感度と塩分摂取行動・血圧値との関連が認められた。食塩摂取量の多い地域では、保健指導の際に塩分味覚感度を考慮した指導の必要性が示された。	

論文審査の結果の要旨及び担当者

(申請者氏名) 久藤 麻子	
論文審査担当者	(職) 氏 名
	主 査 大阪大学教授 磯 博 康
	副 査 大阪大学教授 榎江 友孝
	副 査 大阪大学教授 梁 木 宏 実
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>食塩の過剰摂取は高血圧の大きな原因の一つであり、食塩摂取の多寡には塩分味覚感度（感知・認知濃度）が影響している可能性がある。今回我々は食塩摂取に関する環境や嗜好が異なる秋田と大阪の地域住民に塩味に対する味覚検査を実施し、塩分味覚感度の地域差の存在の検討と、塩分味覚感度と食塩摂取行動・血圧値との関連について横断的に検討した。</p> <p>住民健診受診者30-74歳男女2,642人(秋田：1,254人、大阪1,388人)に対して、塩分含浸ろ紙ソルセイブ(0.1%、0.2%—1.6%：0.2%毎)を用いて塩分味覚検査を実施した。0.1%を感知できた者は、秋田・大阪とも男性約60%、女性約80%であった。最も濃い1.6%の食塩を認知できない者は、秋田・大阪とも男性で約30%、女性では秋田約15%、大阪は約20%であった。また、塩分味覚感度と食塩摂取スコア並びに血圧値との関連について、性別、年齢別、地域別に分析した。食塩摂取量が多い秋田において塩分味覚感度と血圧値との関連が認められた。特に秋田の30-59歳の男性において塩分味覚感度と食塩摂取行動スコア並びに血圧値との関連が認められた。本研究は、塩分味覚感度と食塩摂取行動、血圧値との関連について地域住民を対象に明らかにした初めての研究である。</p> <p>以上のことより、本論文は、学位の授与に値するものと認める。</p>	